

精神保健Ⅱ

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- ・現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について説明できるようになる。
- ・精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について説明できるようになる。
- ・国際的視野に立った精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について基礎的知識を備える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神保健活動の実際Ⅰ（家庭における精神保健と家族支援）
2	精神保健活動の実際Ⅱ（学校における精神保健／いじめ・不登校・教員の精神保健）
3	精神保健活動の実際Ⅲ（学校コミュニティ／スクールソーシャルワーク）
4	精神保健活動の実際Ⅳ（職場におけるメンタルヘルス：EAP・復職支援／関連法規）
5	精神保健活動の実際Ⅴ（地域精神保健活動とネットワーク・多職種連携）
6	地域精神保健と地域保健Ⅰ（災害被災者・犯罪被害者・ニートや貧困など社会的排除）
7	地域精神保健と地域保健Ⅱ（地域移行・地域定着支援／社会的ひきこもり）
8	地域精神保健と地域保健Ⅲ（アルコール関連問題・薬物乱用／依存対策）
9	地域精神保健と地域保健Ⅳ（認知症や介護者のバーンアウト・ターミナルケア）
10	地域精神保健と地域保健Ⅴ（性同一性障害・発達障害・多文化と精神保健）
11	精神保健に関する社会問題と関連法規の理解Ⅰ（うつ病と自殺／自殺対策基本法）
12	精神保健に関する社会問題と関連法規の理解Ⅱ（地域保健法／母子保健法）
13	精神保健の現代的課題（偏見と差別／スティグマ／逸脱／コンフリクト）
14	地域精神保健に関する諸活動（関係法規・資源開発・ネットワーク・人材育成）
15	諸外国における精神保健（WHOの活動・アメリカ・イタリア・イギリス・フランス）

【履修上の注意事項】

- 1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性がある）。
- 2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
- 3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。
- 4 本講義における再試は実施しない。

【評価方法】

- 1 試験による評価（70%）
- 2 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）

【テキスト】

日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 2精神保健の課題と支援』中央法規

【参考文献】

『精神保健福祉白書2015年版』中央法規
野村総一郎・樋口輝彦【監修】『こころの医学辞典』講談社 2003 その他、講義時に適宜資料配布。